お手入れ

お手入れ時の注意事項

商品を長くお使いいただくため、本書に従ってこまめにお手入れを行ってください。
お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れが、しみや腐食の原因となり、他の不具合につながることがあります。特に海岸地域や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみや腐食が進みやすくなります。
また、ご自身で調整を行う場合も、本書に従って行ってください。
ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お願い

【水への配慮】
お手入れの際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで勢いよく水をかけないでください。
室内側へ水が入るおそれがあります。

【薬品への配慮】
お手入れの際、有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）を使用しないでください。有機溶剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

お手入れの際、塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）やエチルアルコールを使用しないでください。
表面に付着すると変色するおそれがあります。
付着した場合はすみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】
たわしや金属たわしなどは、絶対に使用しないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

布やスポンジに砂などが付着したままふき掃除をしないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

【アルミ製商品】
表面に汚れがついた場合は、早めに洗い落としてください。
汚れがついたまま放置すると、しみ、腐食、色落ちするおそれがあります。

【スチール製商品】
玄関ドアの鋼板表面を水や中性洗剤でふいても、艶や色あせが改善されない場合は、研磨剤の入っていないワックスを使ってお手入れすることをお勧めします。
※ワックスの一例：植物成分100%のワックス
※ワックスを使用する際は、その用途を確認し、説明書に従ってお手入れしてください。
　ドア鋼板に適さないワックスは、変色や汚損の原因となりますので使用しないでください。

お願い

【樹脂製商品】
ストーブやアイロンなどの熱源を近づけないでください。
熱源を近づけたり、触れたりすると、変形することがあります。

樹脂表面に、殺虫剤などの薬剤を塗布・散布しないでください。
薬剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

【ガラス】
お手入れの際は、必ず柔らかい布をご使用ください。
ガラス表面にキズがつくと、割れるおそれがあります。

ガラス表面にキズがついた場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

【電装商品】
お手入れの際、電装部品に水がかからないようご注意ください。
水がかかると、故障するおそれがあります。

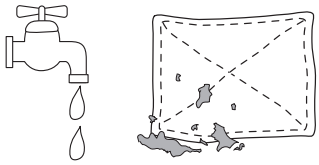
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

お手入れ方法

■通常のお手入れ

1 表面のホコリ・砂を落とす

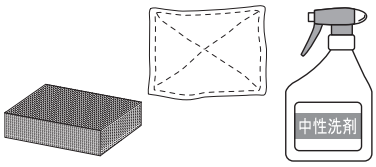
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

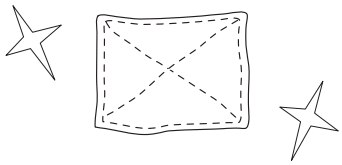
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

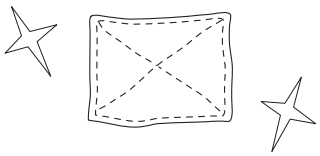
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■結露・雨水などがかかった場合

1 水分をふき取る

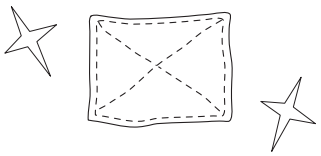
すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■リモコンキー／タグキーのお手入れ

1 柔らかい布で空ぶきする

表面の汚れは、乾いた布や綿棒で軽くふき取ってください。



お願い

- リモコンキー／タグキーを水拭きしないでください。
  リモコンキー／タグキーの中に水が入ると故障の原因となります。

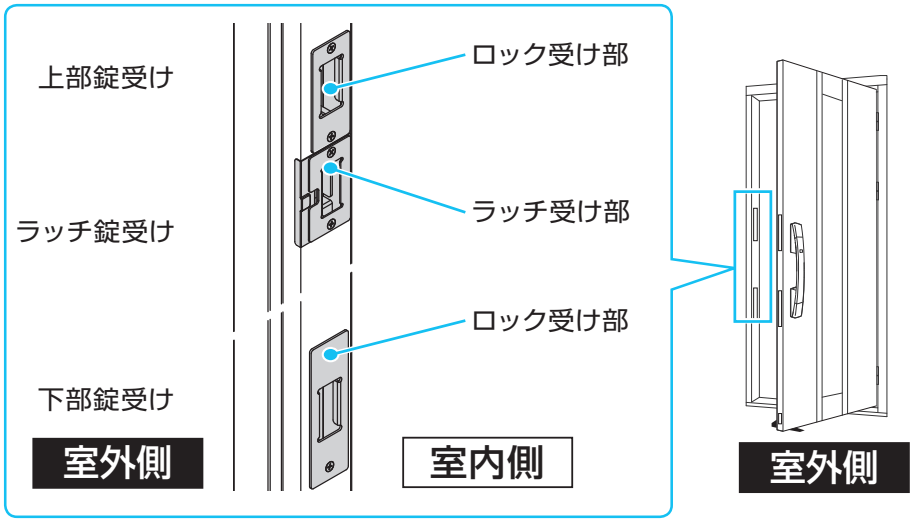
錠受けの調整（玄関ドアの場合）

専用サイトはこちら

玄関ドアのロックがかかりにくくなった時は、錠受けの位置を調整してください。
商品によって錠受けの形状は異なりますが、調整方法は同じ手順となります。

お願い

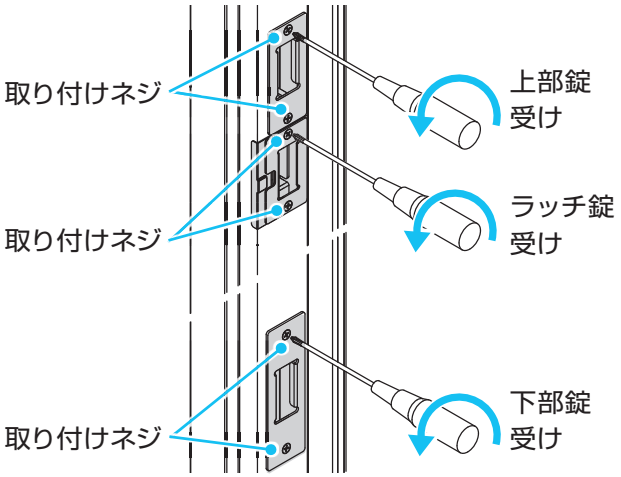
- 調整は、最小限にしてください。調整時、ドアクローザの調整と併せて行ってください。（ドアクローザの調整については、「使い方&お手入れガイドブック　窓・ドア編」をご覧ください。）



1 取り付けネジをゆるめる

錠受けの取り付けネジをゆるめます。

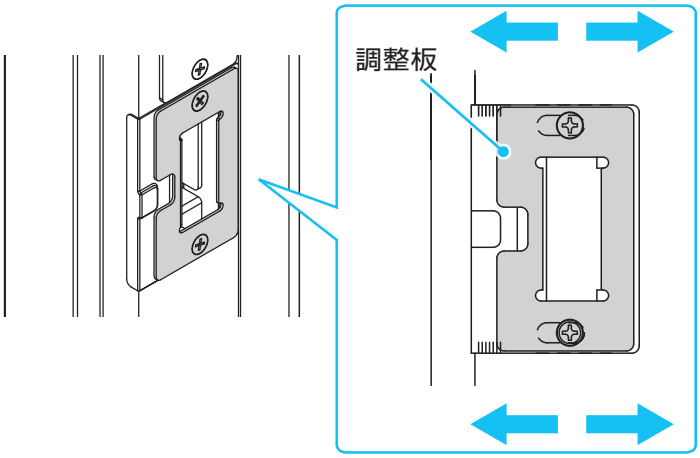
- ネジは絶対にはずさないでください。



2 錠受けの位置を調整する

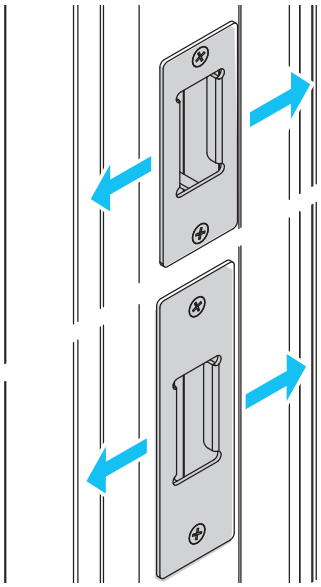
ラッチ錠受けの場合

調整板を左右に動かして右の調整範囲で調整してください。



上部錠受け、下部錠受けの場合

錠受け全体を左右に動かして右の調整範囲で調整してください。



3 取り付けネジをしめる

●上下錠が錠受けへ確実におさまっていることを確認し、必ずネジをしっかりしめ付けてください。

